

令和 8 年度埼玉医科大学保健医療学部一般選抜問題
小 論 文

問1 次の文章を読んで、内容を要約したうえで、自分の考えを述べなさい。

数字を使う場合は桁数や小数点に関らず、ひとまとまりの数字は1マスに記入してください。(250字以内)

赤地に白い十字とハートが描かれた、「ヘルプマーク」を身につけている人が増えてきた。人工関節や心臓病など外見からはわかりにくい障がいや病気のある人が、支援を求めやすくするために使うものだ。電車やバスで席を譲るなど、周囲が自然に手をさしのべられる温かな社会をつくっていききたい。

ヘルプマークは2012年、東京都が作ったのが始まりで、今では全都道府県で無料配布されるようになった。必要な人が申し込めば、役所や駅などでもらえる。マークは17年、国が認めたJIS規格に登録された。都は、その日にちなんで7月20日を「ヘルプマークの日」と定めた。内閣府の調査では、半数の人がマークを知っていると答えた。ただ、年代が上がるほど割合は減り、70歳以上だと3割にとどまる。高齢者にはマークを必要とする人が多いはずだ。シニア世代に知ってもらい、支援を受けやすくすることは重要だろう。一方、マークに見覚えのある人は多くても、その意味を問うと認知度はもっと下がるという調査結果もある。また、対象外の人が使ったり、マークが売買されたりする例もあるという。適切な使い方の周知や啓発が欠かせない。

障がい者や病気の人ができるヘルプマークとは別に、妊婦がバッグなどにつけるマタニティマークはよく知られている。こうした小道具を活用すれば、当事者が説明しなくてもひと目で事情を察することができ、周囲もためらうことなく、声をかけられるのではないか。昨今、SNSの誹謗中傷が社会問題となっている。高齢者を狙った詐欺や強盗に、アルバイト感覚で加担する人も後を絶たない。他者への思いやりに欠ける風潮が広がっているとしたら残念だ。少子高齢化が進むなか、様々な人が共生できる社会をつくっていく必要がある。

このほか、愛知県大府市は昨年、独自に「認知症ヘルプマーク」を作った。認知症の行方不明者を早期に発見するのに役立てるのが目的で、認知症支援のシンボルカラーであるオレンジを基調にしたデザインとなっている。マークの作成は、認知症の父親を列車事故で亡くし、鉄道会社に提訴された経験を持つ大府市在住の遺族の提案で実現した。

国や自治体は、民間の支援団体などと連携し、認知症ヘルプマークについても、全国に広める後押しをしてもらいたい。

(読売新聞 社説 ヘルプマーク 支え合いの社会を築く一助に 2025年8月4日 一部改変)

問 2 図 1 は、仕事をしている理由について、2010 年（55～64 歳）と 2023 年（68～77 歳）で男女別の割合を比較したものです。図から読み取ったことを述べたうえで、自分の考えを述べなさい。

数字を使う場合は桁数や小数点に関らず、ひとまとまりの数字は 1 マスに記入してください。（250 字以内）

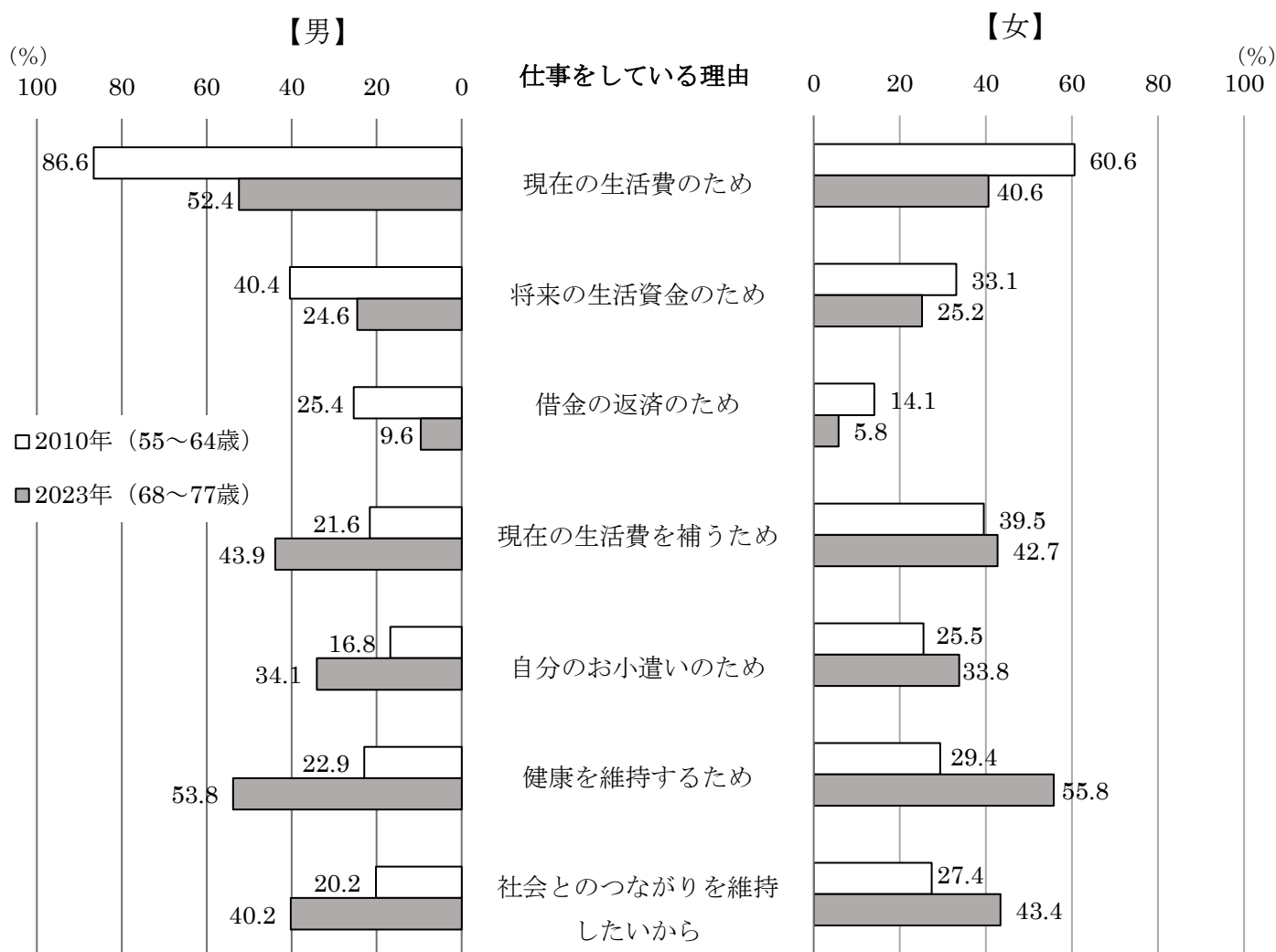


図 1 2010 年（55～64 歳）と 2023 年（68～77 歳）の仕事をしている理由（複数回答）